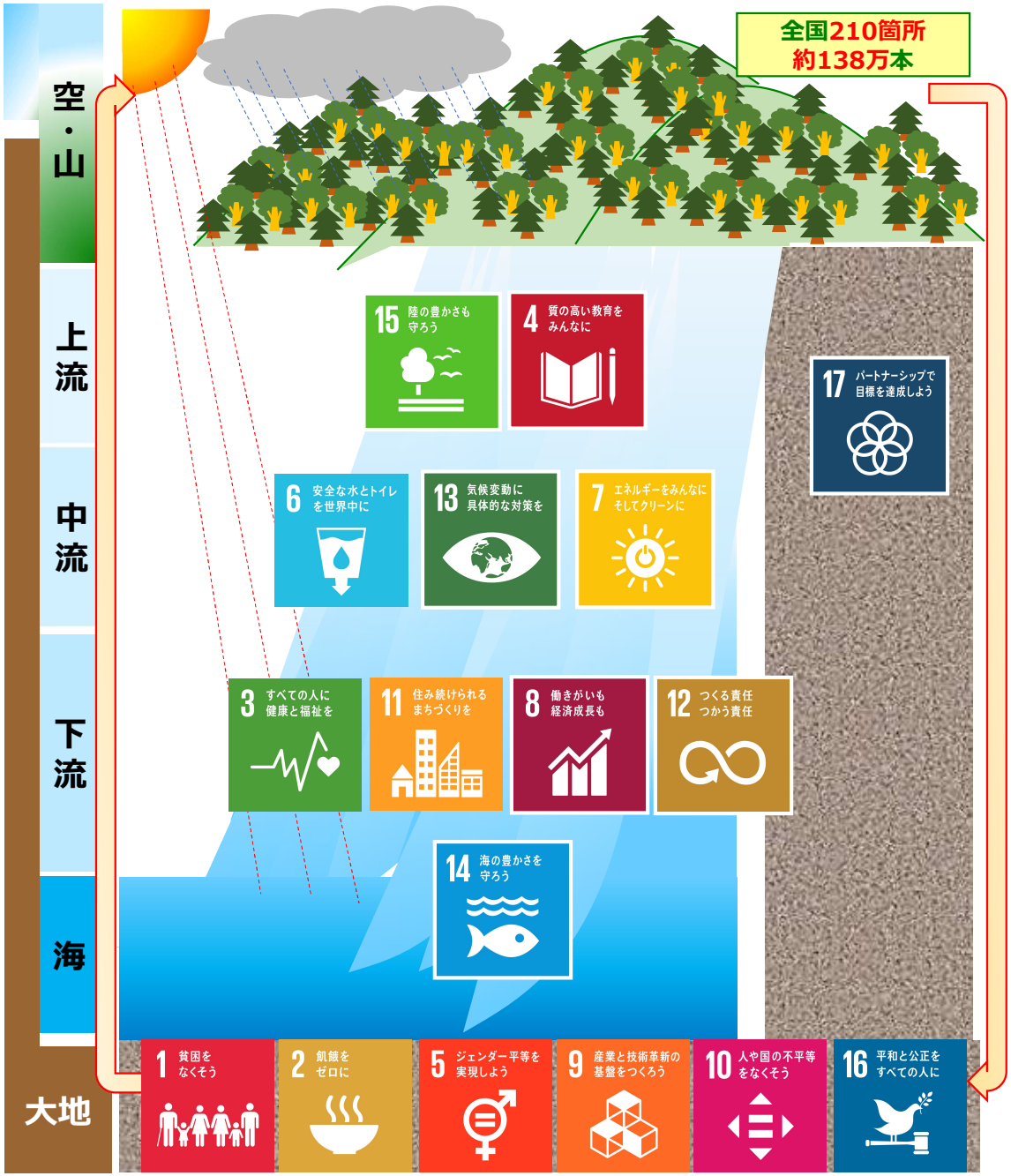
2025年度版

公益財団法人ニッセイ緑の財団のSDGsへの取組



特徴：①地球環境の持続的維持を目標としている　②山・川・海・大地の階層性に基づくSDGs
③自然の仕組みに合わせて循環させている

SDGs(持続可能な開発目標)の主な取組

財団事業の２本の柱

【森林づくり事業】
・全国２１０か所での森林づくり
・更なる環境貢献・地域貢献を目指した新規の森の設置
・動植物の生育・生息に資する里山づくり

【森林を愛する人づくり事業】
・植樹/育樹ボランティア活動の継続実施
・“ニッセイの森”での体験活動
・間伐材等を活用した“ニッセイの森”以外での活動

気候変動や生物多様性保全への対応

・適地適木を原則とした多様な森林づくり：広葉樹 37%

・里山などにおける生物多様性保全を図るための取組：OECM等

・“ニッセイの森”の環境貢献度評価：年間12,443万円
～環境保全(CO_2固定)、水源かん養、山地保全の便益を評価～

包摂性(誰一人取り残さない)を重視した事業展開

・全年齢層を対象としたイベント等の展開
“ニッセイの森” の間伐材や自然を楽しむ要素を組み入れ、
あらゆる属性(年齢、性別他)　の方々に環境保全に係る意識啓発を
幅広く展開

・「学校の木のしおり ・ 樹木名プレート（“ニッセイの森”間伐材)」などを
寄贈し、設置・活用に関わった方々に身近な自然に親しむ機会を提供

環境教育(SDGs達成のカギとなるESD)の推進

・多様な学習機会の提供を通じた環境保全意識の醸成
～全国の“ニッセイの森”での体験学習～
～間伐材等を活用した森林の恵みに触れる機会の提供～
～身近な自然に親しむ活動機会の提供～
～オンラインによる地域を越えた情報の提供～